



**豊かな自然 多様ないきもの
未来につなごう ふるさと魚津
生物多様性うおづ戦略**

概要版

1 生物多様性とは

いのちと暮らしを支えるかけがえのないもの
～将来への財産～

生物多様性とは 3つの多様性

地球上には、森、川、海、里地などの多種多様な自然環境があり、それぞれに適応して進化し「個性」を得た多くの生き物が、互いに「つながり」あい、支えあって暮らしています。この「個性」と「つながり」が生物多様性です。生物多様性には「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」という3つの多様性があるとされています。

生態系の多様性

森林、湿原、河川等、様々なタイプの生態系が、それぞれの地域の気候や地形等の環境に応じて歴史的に形成されています。



奥山の森林

種の多様性

様々な動物・植物・菌類・バクテリア等、多様な種が生息・生育しています。



モリアオガエル

遺伝子の多様性

同じ種でも、形や模様、生態など、個体や個体群によって遺伝子レベルでの違いがあります。



デントウムシ
(C)三木昇 引用：環境省生物多様性ウェブサイト

生物多様性によるすばらしい恵み 生態系サービス

私たち人間も、多様な生物とのつながりを構成する一員です。そして人間は、空気や水、衣食住に係る資源、森林形成による防災機能、癒し等、実に様々なかたちで、これら生物多様性がもたらす恵みを受けています。私たちの生存と生活の基盤となり、潤いと地域色豊かな生活文化を支えているこれらの恩恵は、「生態系サービス(ecosystem service)」と呼ばれています。



魚津のうまい水



里山の景観



サケ



ゼンマイ

魚津市における生態系サービスの恵みと魅力

1 供給サービス

暮らしの基盤

水、食料、燃料、木材、繊維、医薬品等、私たちの日常生活に欠かせない様々な資源を供給してくれます。

新鮮な魚介類の宝庫といわれる富山湾から、魚津港で水揚げされるホタルイカやベニズワイガニ等の豊かな水産品をはじめ、果物、野菜、米等の農産品、ゼンマイ、ワラビ等の山菜、干物、酒などの加工品や木材等、魚津市には多様な生物に由来して供給されているものが数多くあります。

また、魚津の水は、不純物が混入することなく良質であるため、「魚津の水はうまい」とわれています。このうまい水も、緑のダムである魚津の豊かな森林地帯を通して供給されています。



カニカゴ漁

2 調整サービス

暮らしの安全性

森林による自然災害の防止や被害の軽減、水質浄化、気候の調節等、私たちの暮らしに安全や快適性をもたらします。

森の土壌は、多くのすき間を持っており、雨が降っても一時的に蓄えて、急激に水が流出するのを防ぐ力を持っています。この作用によって、雨量が多少変動しても、森から流れ出る水の量は変動が少なくなります。また、地面や草木の根等によって幾層にもなっている森は、雨による土壌の流出や斜面の崩壊を防いでくれ、豪雨による土砂災害等の防止に役立っています。

森林の多い魚津市においても、このような森の調整機能は、私たちの生活に大きな恩恵を与えています。



沌滝

3 文化的サービス

豊かな文化の根源

豊かな自然や景観が食文化やレクリエーション等の楽しみをもたらす、癒しや精神的な充実を与えてくれます。

魚津市では、中部山岳国立公園、僧ヶ岳県立自然公園、片貝県定公園等において多様な生物を育み、美しい景観をもつ自然が多く見られ、保養やレクリエーションの場として多くの人に親しまれています。

また、パワースポットとしても人気の高い洞杉群や、現在でも「地鎮様」と呼ばれている「大沢の地鎮杉」は、精神的側面から、私たちの生活に無形の恩恵を与えてくれます。



自然散策

4 基盤サービス

すべての生命の存立基盤

光合成による酸素の生成、土壌の形成、物質循環、水循環等、他のサービス(①～③)や生物の生存を支えています。

魚津市は、水循環システムが一つの市域で完結している世界的にも稀な地形を有しており、山や里、川、海で生きる多様な生物を育むとともに、市民の生活を支えています。

魚津市には至るところに湧水がありますが、魚津沖の海底湧水は、標高800～1,200mの森林地帯に降った雨が、土壌に含まれているミネラル等の栄養分を伴って地下に浸透し、10～20年かけて海底から湧き出しています。森林地帯の栄養分が沿岸海域に一年中多量に供給されることで、沿岸海域の生態系や基礎生産に大きく貢献していると考えられています。



富山湾から臨む魚津市

2 魚津市の生物多様性の概況

多様な自然環境と生き物

魚津市の概況

魚津市は、海岸から標高2,415mの高山域までの変化に富む自然環境を反映し、奥山、里地里山、市街地、水辺等の多様な生態系がみられます。

奥山には、ミズナラ、ブナ、スギ等からなる天然林が広がり、多くの野生動植物の生息・生育地として魚津市の生物多様性を支える重要なエリアとなっています。里地里山では、農地、二次林、人工林等、人間の営みに接しながら野生動植物の多様な生息・生育環境が形成されてきました。市街地には、都市公園等の緑地があり、身近な鳥類、昆虫類等のすみ処となっています。河川やため池等の水辺には、水質等の条件に応じて、植物、魚類、両生類、昆虫類、貝類等の多様な水生生物が見られます。また、富山湾には、海底が急傾斜で深層まで落ち込む等特殊で多様な環境があり、暖かい浅海の生物から冷水性の深海生物まで様々な生物が生息しています。

魚津市においては、海浜植物から高山植物まで1,600種を超える植物が記録され、水域では、淡水生物(片貝川27種、早月川27種、角川35種の淡水魚や、淡水貝類、両生類等)や1,000種を超す海産生物(魚類、甲殻類、軟体動物等)が確認されています。

魚津市における課題

生物多様性において、4つの危機が叫ばれています。それは「開発や乱獲等の人間活動による危機」「自然に対する人の働きかけの縮小等による危機」「人により持ち込まれた外来種や化学物質による危機」、そして、「温暖化等の地球環境の変化による危機」の4つであり、それぞれの危機が世界各地で進行・拡大しています。

これらの危機は、今まさに魚津市においても進行しつつあるといえます。魚津市では、生物多様性に関する課題を以下の1~4に整理しました。これらの課題を解決し、豊かな魚津市の生物多様性を次世代に引き継ぐための取り組みを推進していくことが必要です。

課題1

人間の活動による生態系への影響への対応

- 堰堤や道路、河川等の工事等による生物の生息生育地の縮小・分断、生育環境の悪化
- 宅地化の進行、田畑、山林等の減少
- 地球温暖化による影響

など

課題2

野生生物の保護・管理と外来生物の分布拡大への対応

- オオフジシダ、キタノメダカ等の絶滅危惧・希少種の捕獲・採取・生育環境破壊
- オオハンゴンソウ、オオクチバス等、特定外来生物等の生息・増加

など

課題3

地域生活、生産活動の維持

- 中山間地域など地域の高齢化や過疎化、農林水産業における高齢化や担い手不足
- 耕作放棄地や放置林の増加
- 野生鳥獣被害の増加

など

課題4

生物多様性の取り組みの基盤づくり

- 生物・生態系の調査・研究の不足
- 生物多様性に関する認識・意識の不足
- 自然環境教育等における子どもや若者への啓発不足

など

魚津の希少な生物

魚津市では、絶滅のおそれがある様々な生物が確認されています。その生息・生育を脅かす要因は、生物の種類や場所などによって異なります。これらの生物を保護し、生物多様性を維持していくためには、個々の事情に応じた対応が必要とされます。



コシジユガヤ



オオフジシダ



キタノメダカ



アジメドジョウ



オオハンゴンソウ



オオクチバス

外来生物

外来生物はもともとそこに生息していた動植物を食べて駆逐したり、同じような食物や生息環境をもっている在来の種からそれらを横取りすることによって、その土地の生態系を崩してしまいます。また、近縁の種との間で交配が起こり、雑種が生まれれば、遺伝子の汚染が進むなどの影響があります。

3 生物多様性うおづ戦略のめざすもの

「守る」「活かす」「学ぶ」ことで築く
魚津の未来

1. うおづ戦略の位置づけ

この戦略は、魚津市の豊かな自然環境と生物多様性を次世代に引き継ぐため、生物多様性の保全と持続可能な利用のための各種施策を定め、市民や事業者、行政等が互いに連携・協力しながら取り組むべき生物多様性の保全等に関する活動の指針とするものです。

この戦略は、生物多様性基本法第13条に基づく生物多様性地域戦略です。

2. 対象区域

魚津市域の全域とその沿岸海域とします。

3. 目標期間

本戦略の長期目標年次は、2050年度(平成62)とし、長期的な展望に立った戦略の推進を図ります。

また、具体的な施策の実施期間は、2014年度(平成26)から2020年度(平成32)とします。

生物多様性をめぐる近年の動き

1992年(平成4) 地球サミット(ブラジル)にて「生物多様性条約」採択

1993年(平成5) 日本が、「生物多様性条約」締結

1995年(平成7) 「生物多様性国家戦略」策定

2008年(平成20) 「生物多様性基本法」制定

同法第13条にて、都道府県及び市町村における生物多様性地域戦略策定の努力義務を規定

2010年(平成22) 「生物多様性国家戦略2010」策定、名古屋市において条約締約国会議COP10開催

2012年(平成24) 「生物多様性国家戦略2012-2020」策定

将来像 豊かな自然 多様ないきもの 未来につなごう ふるさと魚津

生物多様性うおづ戦略では、魚津市の豊かな自然環境や様々な動植物や産業等を育てている魚津の水循環の保全を重視しながら、多様な生態系や野生生物等の保全を進めます。また、市民生活の豊かさや地域振興、産業活性化等に結び付けることも念頭に置きながら取り組みを進めます。さらに、魚津市の博物館(魚津水族館・埋没林博物館・歴史民俗博物館)が有する知見等を最大限に活かしながら、生物多様性保全を推進するための仕組みを構築します。

「豊かな自然 多様ないきもの 未来につなごう ふるさと魚津」を将来像として掲げるとともに、3つの基本目標の実現に向けて取り組みを進めていきます。

基本目標1

生物多様性を守る

魚津市の南東部は標高2,400mを超える山岳地帯で、これらの山々を源とする布施川・片貝川、角川、早月川などの河川が、富山湾に流入しており、水資源の豊富な市です。この水資源やその循環と急峻な地形により、地域ごとに多様な特色をもって現在の生態系が成り立っています。水循環や生態系の保全、希少野生動植物等をはじめとした野生生物等の保護・管理の取り組みを進め、魚津市の豊かな生物多様性を将来にわたって保全します。



僧ヶ岳 仏ヶ平のゼンテイカ

基本目標2

生物多様性の恵みを活かす

私たちが魚津の地で暮らし、生活していく上で、自然との共生は必然的なものであり、市民生活、生産活動、伝統文化の基盤となるなど、多くの恵みを生物多様性から受けています。この生物多様性からの恵みを、市民生活においても農林水産業や商工業等の事業活動においても共存共栄の視点に立ち、優れた関係性を保ちながら将来にわたり持続的に活用していきます。



定置網漁

基本目標3

生物多様性を学ぶ

魚津市の豊かな自然環境に育まれてきた生物の多様性は、次世代に引き継ぐべき貴重な財産であり、魚津市総合計画でも「このかけがえのない自然資源を「守り、育み、活用する」ことが重要な課題」としてしています。市民等が生物多様性について学び、理解を深め、それぞれの主体的な行動に結びつくように普及啓発を進めます。また、生物多様性に関わる人材を育成しながら、保全等の活動が広く展開されるように市民や地域・関係団体等、事業者、行政等の連携を推進します。



魚津水族館出前水槽

4 施策と取り組み

将来像実現のための取り組み

基本目標1 生物多様性を守る

1.生態系等の保全

魚津市の豊かな生態系を将来にわたって保全するため、水循環の保全を図り、生態系のつながりを意識しながら、森林、里地里山、河川、まち、海など、それぞれの生態系の保全を進めます。

また、人間の活動によって失われてきた生態系の再生につながる取り組みを進めます。

- 魚津の水循環の保全
- 奥山から海までのつながりを意識した生態系保全推進
- 自然公園や自然環境保全地域等の適正な保護・管理
- 生態系等の再生
- 事業活動における生物多様性保全への配慮



植樹の取り組み



森林間伐



涵養水田

2.生物の保護・管理

魚津市の野生生物の生息状況等を把握して希少野生動植物等の保護・管理を実施するとともに、その生息を脅かす外来生物等への対策を進めます。併せて、近年課題となっている鳥獣被害への対策も行いながら、野生生物との共生を図ります。

- 野生動植物等の調査・保護
- 野生生物の適正管理
- 外来生物等への対策



ため池改修に伴う希少植物移植



メダカの繁殖池



基本目標2 生物多様性の恵みを活かす

1.市民生活における活用

市民の食生活を豊かにしてくれる新鮮で種類の豊富な魚介類、山菜やうまい水、レジャーや癒しの空間として心を豊かにしてくれる片貝川上流などの自然景観等、様々な恵みをもたらす生物多様性を市民生活の中で活用していきます。

- 自然の恵みの活用

2.事業活動における活用

生物多様性の保全を図りながら農林水産業等を推進し、そこから生まれる農林水産品等を利用していきます。また生物多様性を観光業や商工業等と連携しながら、新たな事業展開に活用していきます。

- 農林水産業の推進
- その他の事業活動における活用



自然散策

基本目標3 生物多様性を学ぶ

1.調査・研究の充実

魚津水族館や埋没林博物館等が中心となり、生物多様性に関する調査・研究を充実させます。

- 博物館を中心とした調査研究
- 生物多様性に関する資料や情報の収集

2.普及啓発・教育の推進

市民の生物多様性についての理解が深まり、保全等の行動につながるよう、広く情報を発信するとともに自然環境教育の充実を図ります。

- 普及啓発と教育の充実
- 自然とのふれあいの場の提供

3.人材育成とネットワークづくり

市民等の生物多様性保全活動への取り組みが広く展開されるように、指導者の育成等を行うとともに、市民、地域や関係団体、事業者、行政等の多様な主体の連携を図ります。

- 生物多様性に関わる人材育成
- 生物多様性のネットワークづくり



うおづ水辺の調査隊

5 重点的に取り組む事業

自然との共生のために

魚津市の地域特性を踏まえて、2014年度(平成26)から2020年度(平成32)の7年間にわたり、次の3つのプロジェクトを掲げ、重点的に取り組みを展開していきます。

1

水と緑の学び舎プロジェクト

プロジェクトの目的

河川上流域等をフィールドとして、自然観察会等を実施し、生物や生態系の状況を観察することで、人との関わりや生物がもたらす恵みについて学びます。その中で、生物多様性や生態系等を保全することの大切さを認識し、市民の生物多様性保全等の取り組みにつなげます。



洞杉

取り組み内容

- 市民や親子を対象として、市内河川等の水生生物の調査や観察会を開催します。
- 県立自然公園や県定公園等で自然観察会を実施し、生物がもたらす恵みや森林などがもつ機能について、市民の理解を深めます。また、休耕田をビオトープ等に再生し、自然再生や生態系保全等を学び体験する機会を提供するとともに、市民の主体的な保全活動等の行動につなげます。
- 観光ボランティアやナチュラルリストの協力を得ながら、自然解説員の育成を図るとともに、魚津の生物多様性保全を活かしたエコツーリズム等の展開も図ります。



自然観察会



池尻の池 ミズバショウ群生地

2

海の生物保全と活用プロジェクト

プロジェクトの目的

市民とともに沿岸海域の生物や水質等の調査を行い、水生生物の生息環境の変化を把握し、沿岸海域の環境保全に努めるとともに、海を環境教育の場として活用します。また、海産資源の充実を図り、市民が海の恵みを将来にわたって享受できるようにその対策を推進します。



アマモ場

取り組み内容

- 子どもたちとともに海岸に棲む多様な生物の調査や観察会を開催します。併せて、命の大切さや思いやる心など感性豊かな人間性を育む機会とします。
- 藻場の再生などを実施し、海の生物の生育環境の回復・改善を図ります。また、水産資源を将来にわたって安定的に供給していくため、中間育成や放流など資源循環型漁業を推進します。
- 魚津の豊かな海の幸を活用した食文化を継承するとともに、新たな商品開発やブランド化を推進します。
- 海岸美化活動などを展開し、環境保全意識の啓発を図るとともに、多様な生物が生息・繁殖できる環境づくりに努めます。



漁業体験



バイ飯

3

人と野生生物との共生プロジェクト

プロジェクトの目的

人と野生動物との共生(棲み分け)を図るため、野生動物の生息状況の把握やその生態等を調査・研究し、地域や関係者が一体となって必要な取り組みを推進します。



電気柵

取り組み内容

- 博物館や研究機関等が連携して、哺乳類・鳥類等の野生動物の生息や生息域の生態系等の調査を行い、情報を蓄積し、野生動物との共生の方策を探ります。
- 里山での緩衝帯(山際)の整備や電気柵の設置、耕作放棄地対策などにより、野生動物との棲み分けを地区住民とともに推進します。
- 市鳥獣被害対策実施隊や農業生産者、農業協同組合、森林組合など各関係団体などと協力・連携を図りながら、イノシシなどによる農作物や生活環境への被害防止対策を推進します。



小菅沼のヤギ



わなの設置



私たちの役割

みんなで支えよう
生物多様性

生物多様性の保全等のためには、私たち一人ひとりが、生物多様性とそれぞれの社会生活や事業活動等との関わりを認識し、主体的に行動するとともに、連携しながらその役割を果たしていくことが必要です。

市民の役割

- 私たち自身と生物多様性との関わりについて、理解を深める。
- 地産地消や旬産旬消、環境に配慮した商品の購入等、常に生物多様性を意識した行動をとる。
- 地域・関係団体等や行政が行う生物多様性の保全活動に関する行事等へ参加する。

事業者の役割

- 事業活動の様々な場面で、生物多様性に配慮する。
- 従業員に対する自然環境や生物多様性に関する教育を実施する。
- 地域・関係団体等が開催する生物多様性の保全活動等との連携、活動への参加や支援をする。

地域・関係団体等の役割

- 地域の生物多様性について理解する。
- 生物多様性保全等の活動を自ら実施する。
- 市民、事業者、行政等と連携しながら保全等の活動を広げ推進する。

魚津市の役割

- 将来像や3つの目標達成に向けて各施策を総合的に実施する。
- 各主体に対し積極的な働きかけを行い、生物多様性の保全に必要な支援等を適切に行う。
- 生物多様性の保全の普及啓発や教育を推進する。

豊かな自然 多様ないきもの 未来につなごう ふるさと魚津
生物多様性うおづ戦略
〈概要版〉

平成26年3月

魚津市 民生部 環境安全課
〒937-8555 富山県魚津市釈迦堂一丁目10番1号
TEL:0765-23-1004 FAX:0765-23-1092
E-mail: kankyoanzen@city.uozu.lg.jp